

品目:だいこん(青首大根、干し大根等)露地、ハウス

月旬	1 上中下	2 上中下	3 上中下	4 上中下	5 上中下	6 上中下	7 上中下	8 上中下	9 上中下	10 上中下	11 上中下	12 上中下	目標収量：4,500kg(L~M 70%) 秀品：75%以上														
栽培体系													種子量 6dℓ 採植株数 4,400~5,900本 うね幅 70~75cm 株間 25~30cm 干し大根の株間は19~24cmなので種子量約8dℓ 施肥例														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>肥料名</th> <th>数量</th> <th>成分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">元肥</td> <td>苦土石灰</td> <td>40</td> <td rowspan="3">メロン等の後作ではN成分を5kg位とする。堆肥は前作に入れる。</td> </tr> <tr> <td>BMようりん</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>MMB燐加安14号</td> <td>60~100</td> </tr> <tr> <td>追肥</td> <td>燐硝安加里 S604</td> <td>20~40</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>													肥料名	数量	成分	元肥	苦土石灰	40	メロン等の後作ではN成分を5kg位とする。堆肥は前作に入れる。	BMようりん	60	MMB燐加安14号	60~100	追肥	燐硝安加里 S604	20~40
	肥料名	数量	成分																								
元肥	苦土石灰	40	メロン等の後作ではN成分を5kg位とする。堆肥は前作に入れる。																								
	BMようりん	60																									
MMB燐加安14号	60~100																										
追肥	燐硝安加里 S604	20~40																									
病害	軟腐病 亀裂褐変症・ワッカ症 アオムシ・コナガ・ヨトウムシ アブラムシ キスジノハムシ・アブラムシ																										
栽培上のポイント	1. 秋まき ● 施肥：前作がメロン等では残肥を子考慮し、窒素成分は10kg程度に抑える。 ● 耕起：土壌条件で根部の形状が大きく左右されるので、できるだけ深く、細かく耕起する ● は種期：上記の栽培体系より早播きする場合はウイルス・軟腐病が多発しやすいので品種を十分検討する。播種限界は露地で9月5日頃、ハウスで9月25日頃。それ以降は根部の肥大が著しく低下する。 ● は種：畑が乾燥してる場合は十分灌水してから種する。は種機、またはシーダーテープを利用して引き手間を省略する。 ● 除草剤散布 は種直後に土壌水分がある状態で施用する。砂丘地はくびれ等の葉害が発生しやすいので施用量には特に注意する。 干し大根のは種期はその年の気候にもよるが、なるべく3Lを作らないような施肥設計、は種時期の検討を行う。						2. 春まき ● 施肥：マルチ内のため全量元肥とし、ガス障害防止の為、硝酸態窒素のものを用いる。 ● 耕起・うねたて・マルチ・皮膜 できるだけ深く耕起し、高うねとし、グリーンマルチを用いて、雑草の発生を抑える。少なくともは種の5日前までにはマルチングを終え、地温を高め、抽だいの発生を防止する。トンネルの被膜もできるだけ早く行い地温を高める。マルチは条間55cm、穴間20~25cmの穴あきマルチがよい。 ● は種：間引きをする場合マルチ穴に2~3粒まく。3月下旬~4月上旬は種の場合ベタ掛け資材を使用する。間引きは、は種後20日頃に一本立ちとする。 ● 温度管理 ・適温域にしたがって、20前後で管理するのが理想だが、は種当初は夜温も低く日中もあまり暖かにならないので、トンネルを密閉し、高温で管理する。 ・4月中旬ごろからは35以上にもなるので						すそを少しすかして換気し、4月下旬は天気によって開放度を加減する。5月に入ったら昼夜とも開けっ放し。 3. 防除 ● 夏から秋の高温乾燥時はアブラムシの発生が多く、ウイルス病が発生する恐れがあるので初期防除に努める。 ● 収穫期までアオムシ・ヨトウムシ等の発生が懸念されるので定期的に防除する。 ● また高温期は軟腐病が発生しやすいので少し涼しくなるまで防除する。 ● 春まきは害虫被害はあまり無いが生育後半期にアブラムシ防除を行う。 4. 追肥 ● は種後25日くらいまでに2回くらいに分けて施す。 ● 春まきは生育を見て弱い場合は液肥を施用する。						- 間引きの判断 - ・チツソを過剰にしない ・未熟有機物を施用しない ・2~3年で輪作(根菜は避ける) 								

